

神奈川・北条小町邸跡
ほうじょうこまちてい

- 1 所在地 神奈川県鎌倉市雪ノ下二丁目
- 2 調査期間 一九九九年(平11)一〇月～二〇〇〇年一月
- 3 発掘機関 北条小町邸跡発掘調査団
- 4 調査担当者 森 孝子
- 5 遺跡の種類 中世都市跡
- 6 遺跡の年代 中世(一三世紀初頭～一四世紀)・近世(一七世紀～一九世紀)
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(横須賀)

調査地点は鎌倉の市街地の中心に位置しており、若宮大路の東側、鶴岡八幡宮から南に二五〇mの場所に所在する。本遺跡の名称ともなっている「北条小町邸跡」とは、北が横大路、西が若宮大路、東が小町大路に囲まれたおよそ二〇〇m四方の範囲である。調査地点は北条小町邸跡の南西隅付近に位置し

ている。

北条小町邸は北条義時の私邸に起源を持ち、代々北条得宗家が正邸を構えたと伝承されており、さらに若宮幕府が置かれていた可能性も指摘されている。また、本遺跡地南隣は宇津宮辻子幕府跡、若宮大路を挟んだ西向の一郭には北条時房・顕時邸があったと言われている。都市鎌倉の中核となる地域であった。

調査の結果、中世・近世の幅広い遺構群が検出された。近世の遺構としては井戸・土坑などが検出され、八幡宮社頭における庶民の活発な営みが確認された。また、若宮大路東側溝の護岸と考えられる遺構群も検出されている。中世の遺構としては鎌倉前期の若宮大路の側溝と考えられる大規模な南北方向の溝五条、大路側溝に流れ込む東西南方向の溝四条が検出された。また、L字型に屈曲する東西・南北方向の素掘りの区画溝も検出され、北条小町邸の南西隅を示すと推察される。

木簡は一三世紀初頭の若宮大路側溝から一点出土した。これは五時期ある側溝のうち最も古い時期の素掘りの大溝で、橋脚も確認されている。木簡は多量に投棄された木片に混入して出土した。溝に不用品として廃棄されたものとみられる。

8 木簡の积文・内容

(1) 十年の大月閏二月□

(277)×22×4 081

板材を縦に切って長方形に作られている。上端は鋭利な刃物などで切断され、また、下端は折れており完形品ではない。木簡は片面に、一行墨書され、九文字が確認された。最後の文字の下は、黒いしみ状に汚れており、あるいは墨痕の可能性がある。ある年の大の月を書きあげた木簡で、「十年」は、遺構の年代観から建久一〇年（正治元年 一一九九）の可能性があるが、この年に閏二月はない。

9 関係文献

北条小町邸跡発掘調査団『北条小町邸跡（泰時・時頼邸）発掘調査報告書』（二〇〇〇年）

（森 孝子〈宮田事務所〉）

